

平成25年度 糸魚川市道徳部 活動報告

部長 町田 庄司

1 研究主題

「役割演技を取り入れた道徳の授業の在り方」

2 研究の概要

市道徳部員は、12名（他に中学校、特別支援学校教員が7名）であり、各学校1名程度で構成している。本テーマでの研究は、昨年度からの継続研究で2年目である。

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであるが、その要としての道徳の時間の重要性を認識し、補充、深化、統合するために効果的な方法として役割演技に注目して取り組んでいる。

3 研究の実際

(1) 役割演技を取り入れた道徳の授業についての個人研究①

道徳の授業に役割演技を取り入れた実践を2～3積み、成果や課題を明確にした。

(2) 研修会での実践報告

1学期に取り組んだ授業実践から、役割演技を導入した意図、導入した場面、考察を中心に報告し合った。設定場面を身近なものにすると効果があるという報告が多く、しかし、自分の言葉で表現することがまだ課題であることも分かった。部員には1～4年の学級担任が多く、他者への思いやりのある言動は、このような役割演技を取り入れた道徳の授業を低学年から積極的に導入することが重要であるとあらためて確認することができた。

(3) 研修会での指導

上越教育大学大学院 早川教授からは、役割演技による道徳授業のよさを中心に道徳授業の意味を御指導いただいた。

「将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質」が道徳的实践力であり、これを育成するのが道徳の授業であると御指導いただいた。授業では、自己を映し出す鏡が必要であり、その一つの方法が「役割演技」であることから、部員を対象に模擬授業を行っていただいた。



(4) 役割演技を取り入れた道徳の授業についての個人研究②

実践の交流や指導を受け、2、3学期の道徳の授業に取り組んでいる。また、所属校の道徳に反映できるよう校内研修会等を開催している学校もある。

4 成果と課題

実践をレポートにすることにより、取組の成果や課題が鮮明になる。それが次の取組へとつながっている。また、実践報告として交流することや指導者からの演習を基本にした研修会を開催することは、明日の授業に直結するものと信ずる。

時間的制約から実践報告に関わる協議の時間を多く取れないことが課題である。少人数グループ等にして深まりのある研修会を検討する。